



宮崎県 都城市

丸中 章栄

年齢 : 31歳

営農類型: 施設野菜 22a (きゅうり)

経営構成: 本人、妻

就農のきっかけ

私はもともと教員をしていましたが、自営志向が強く、決まった給料を受け取るよりも、自分の取り組みがそのまま評価される働き方がしたいという思いがありました。YouTube で新規就農者の収支事例を見たことが転機となり、農業高校勤務の経験から「自分にも農業ができる」と判断し、都城市で就農しました。

現在の経営状況、課題について

現在は22a のハウスで、妻と二人で作業しています。週に1~2回、知人にも手伝っていただいています。温度・湿度・CO₂量・日射量などのデータを確認しながら、水量などの管理を行っています。

研修先は都城市でも優れた成績を収めている農家で、先進的な栽培技術を積極的に導入されており、そのような環境で研修できたことはとても良い経験でした。きゅうりは全量をJAに出荷し、規格外品は直売所へ出荷しています。課題はハウスの特性をつかむことです。ハウスの長さや高さによって暖房費が増えたり、水圧の偏りによって灌水ムラが生じ病気の原因につながるため、こうした栽培上のコツを習得することが今後の課題です。

就農時に活用した事業

就農準備資金・経営開始資金は主に生活費や資材購入に活用しました。YouTube で、5年間支給される（以前の開始型）支援制度を知り、農業にチャレンジする後押しになりました。今後は新しく創設された新規就農チャレンジ事業の活用も考えています。

地域のサポート等

困ったときは、JAの指導員さんや研修先の師匠に相談したり、勉強会に参加したりしています。身内に不幸があったり緊急事態が発生した際は、支部の皆さん方が収穫作業、JAの方が出荷を手伝ってくださるなどサポート体制が整っており大変助かっています。

農業の魅力・新規就農者にむけて

農業の魅力は自由度の高さです。作業時間を自分で調整でき、段取り次第で自分の時間をつくることができます。また、自分の努力がそのまま収益に反映される点も魅力です。教員時代と比べると人間関係のトラブルが少なく、精神的にも楽になり、朝も気持ちよく起きられるようになりました。新規就農者へのアドバイスとしては、まずハウスを確保することが大きな課題だと思います。勉強会に積極的に参加し、周囲の農家からのアドバイスを素直に受け入れることで成果につながります。

今後の目標と取り組みについて

収量 20t /10a を目指しており、毎年安定して収穫できる農家になりたいと考えています。部会の中でも成績を上げ、トレーニングセンターで学んだ技術を活かしながら、改善を重ねてさらに上を目指していきたいです。